

隠岐

木質バイオマス発電



ネオナイトが実証実験のため福島県内に設置したガス化発電システム＝ネオナイト提供

松江・ネオナイト

施設5基 島内資源を活用

汚水処理業などを手掛けるネオナイト(松江市富士見町、寺山文久社長)が、島根県・隠岐諸島で、木質バイオマス発電施設の整備に乗り出す。2016年

から20年にかけて約15億円を投じ、出力180瓩の発電施設を計5基設置する計画。島内の森林資源を利活用し、離島の経済振興や雇用の創出につなげる。

福祉施設など電力供給へ

同県隠岐の島町は14年、バイオマス燃料の収集、生産、利用を地域内で一貫して行い、再生可能エネルギーの普及や産業創出を図る、国の「バイオマス産業都市」に選定された。ネオナイトも官民による推進団体に加わっている。

発電施設のうち、1基目は同町内に建設。15年夏までに立地場所を選定し、16年2月に完成、同年夏の稼働を予定している。施設は、炉の中で木材に

高熱を加えて発生させた可燃性ガスでタービンを動かす、ガス化発電システムを採用。福島県内に設けた実験炉のデータでは、木材チップを直接燃焼し、ボイラーの蒸気でタービンを回す一般的な方法より、発電効率が2倍近く高かったという。燃料の木材は、島内の業者などから調達した間伐材や端材を利用する。

2基目以降も順次、島後、島前を含めて適地を選び、

建設する。5基を合わせた総事業費約15億円のうち、2億円は環境省の補助金を活用する。

発電した電力は、島内の福祉施設や民間事業所などに販売するほか、余剰電力は固定価格買い取り制度を利用し、1瓩時当たり40円で電力会社に売電する。

さらに、発電時に出る排熱は、農業用ハウスや入浴施設、木材の乾燥施設向けなどに販売する計画。売電や熱供給による収益は16年度に約5500万円、5基がそろって稼働する20年度に3億9千万円程度を見込んでいる。

発電所の保守管理要員などとして、11人の新規雇用を計画している。

寺山社長は「島内にある資源を有効に活用し、地域経済の活性化につなげた」と話した。